

2001. 3. 14
広島

IEEE広島支部 2001年総会議案

期日 2001年3月14日(水)
会場 広島弥生会館
(〒732-0057 広島市東区二葉の里3-2-15)

総会次第

1. 開会の辞
2. 2000年支部長挨拶
3. 議事
 - (1) 2001年支部長の選出および新役員・理事の紹介
 - (2) 2000年事業報告および収支決算報告
 - (3) 会計監査報告
 - (4) 2001年事業計画(案)および予算(案)審議
4. 新支部長挨拶
5. 広島支部学生シンポジウム(HISS)貢献賞表彰
6. 閉会の辞

理事に同じく後日
選考の経緯を
新役員に決定する。

2001.3.14

2001 年 IEEE 広島支部役員・理事リスト

支部長

栗井 郁雄
山口大学工学部電気電子工学科 教授
Tel: 0836-85-9455, Fax: 0836-85-9455
E-mail: awai@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

副支部長

角田 良明
広島市立大学 情報科学部情報工学科 教授
Tel: 082-830-1696, Fax: 082-830-1792
E-mail: kakuda@ce.hiroshima-cu.ac.jp

幹事

平川 正人
広島大学工学部第二類 助教授
Tel: 0824-24-7670, Fax: 0824-22-7195
E-mail: hirakawa@huis.hiroshima-u.ac.jp

カワノ市川先生の下

理事

市川 忠男
比治山大学現代文化学部コミュニケーション学科 教授
Tel: 082-229-8938, Fax: 082-229-8938
E-mail: ichikawa@hijiyama-u.ac.jp

角南 英夫
広島大学ナノデバイス・システム研究センター 教授
Tel: 0824-24-6269, Fax: 0824-22-7185
E-mail: sunami@sxsys.hiroshima-u.ac.jp

棚田 嘉博
山口大学工学部知能情報システム工学科 教授
Tel: 0836-35-9471, Fax: 0836-29-0053
E-mail: tanada@csse.yamaguchi-u.ac.jp

土屋 敏章
島根大学総合理工学部電子制御システム工学科 教授
Tel: 0852-32-6127, Fax: 0852-32-8909(学科事務室)
E-mail: tsuchiya@ecs.shimane-u.ac.jp

野木 茂次
岡山大学工学部 電気電子工学科 教授
Tel: 086-251-8132, Fax: 086-251-8133
E-mail: nogi@elec.okayama-u.ac.jp

山田 茂
鳥取大学工学部社会開発システム工学科 教授
Tel: 0857-31-5303, Fax: 0857-31-0882
E-mail: yamada@sse.tottori-u.ac.jp

吉田 彰顕
広島市立大学情報科学部 教授
Tel: 082-830-1790, Fax: 082-830-1790
E-mail: yoshida@ieee.org

2001.3.14

2000年事業実施報告

2000年は、総会1回、理事会1回、講演会3回を実施した。2001年1月には、第2回IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS2001)を開催した。個別の事業の詳細は下記の通りである。

2000年4月21日

総会 広島 ASTER PLAZA (アステールプラザ)

参加者16名

1999年事業実施報告、第1回IEEE広島学生シンポジウムの決算報告、1999年決算報告が報告された後、2000年事業計画、2000年予算計画の審議を行い、提案通り承認された。

2000年4月21日

講演会 広島 ASTER PLAZA (アステールプラザ)

講演者 神戸大学名誉教授 平井一正 教授

講演題目 未知への挑戦ーヒマラヤ初登頂

参加者26名

2000年6月14日

講演会 岡山大学

講演者 京都大学大学院工学研究科 宅間 董 教授

IEEE Fellow

講演題目 SF6 (六フッ化硫黄) と地球温暖化

参加者113名

2000年8月28日

理事会 島根大学

参加者6名

6月の講演会の報告、12月の講演会の計画が紹介された後、次期役員の推薦および選挙について議論した。その結果、できるだけ複数の候補者を推薦することが同意された。また、第2回IEEE広島支部学生シンポジウムの準備状況について報告があった。

2000年12月28日

講演会 広島市立大学

講演者 David Lee 博士

Vice President of Bell Laboratories Research

IEEE Fellow

講演題目 Integrated System Interoperability Testing with Applications

to VoIP

参加者 20名

2001年1月13日, 14日

第2回IEEE広島支部学生シンポジウム

広島市立基町高校

参加者 13日 189名

14日 153名

本シンポジウムは積極性、自主性を備えた学生を育てるという広島支部の目標の一つを達成するために2000年に引き続き開催された2回目のシンポジウムである。本シンポジウムの特徴は3つあり、学生が主体となって本シンポジウムを企画、運営を行ったこと、研究発表では質問主導型の発表形式を採用したこと、論文概要を審査したことである。実行委員会は委員長西田賢司君（広島市立大学博士前期課程1年）をはじめ広島市立大学、広島大学、山口大学、岡山大学、島根大学、鳥取大学から選出された学生で組織され、立派にその職務を果たした。本シンポジウムは、開催趣旨に賛同された2つの財団からの多額の援助金等により支えられた。本シンポジウムは、ATR顧問葉原耕平氏による基調講演「人や自然の奥深さに学ぼう」、NTT広島放送局尾崎雄一氏による基調講演「BSデジタルの技術動向」、2つのパネル討論「ITが創造する新しい社会」、「サイバー時代の倫理」、学生による一般発表件数91件で構成された。一般発表は全てポスター形式で並行して行われた。本シンポジウムの参加者は連日150名を超え、新聞取材が行われる等、注目を集め盛況であった。

なお、第2回IEEE広島支部学生シンポジウムの準備のために広島大学、岡山大学、山口大学、島根大学、鳥取大学、広島市立大学から選出された学生が広島市に集まり6月26日、9月29日、12月14日に実行委員会が開催された。

第2回IEEE広島支部学生シンポジウムでは、下記の通り、HISS最優秀研究賞、HISS優秀研究賞、HISS最優秀プレゼンテーション賞、HISS優秀プレゼンテーション賞が選出され、表彰された。また、第1回IEEE広島支部学生シンポジウムで顕著な活躍が認められた神成直輝（実行委員長）、中安とし子（実行委員）の両名にHISS貢献賞を授与し、2001年の総会で表彰することが決まった。

・HISS最優秀研究賞

通信分野 福島正子 広島市立大学

「鳥取県西部地震に呼応したVHF帯自然界電磁波の観測」

・HISS優秀研究賞

情報分野 檀原龍正 岡山県立大学

「音声駆動型身体引き込みインタラクションシステム：InterRobotとInterActorの開発」

電気分野 宮脇大輔 広島大学

「IC設計の信頼性のためのテクノロジーと回路特性のばらつきの相互関係付け手法」

電子分野 溝田寿 岡山大学

「多層基板の平行平板共振特性の高速解析」

情報分野 秋成秀紀 広島大学

「遠隔制御プロトコルを用いた情報コンセントシステム」

情報分野 岩内宣之 広島大学

「遺伝パラメータの適応的調整機能をもつ並列遺伝的アルゴリズムのPVMへの実装と実験的評価」

通信分野 松尾忠宜 山口大学

「実数直交PN系列による電子透かしにおける埋め込み位置の決定法」

・HISS最優秀プレゼンテーション賞

情報分野 檀原龍正 岡山県立大学

「音声駆動型身体引き込みインタラクションシステム：InterRobotとInterActorの開発」

・HISS優秀プレゼンテーション賞

通信分野 福島正子 広島市立大学

「鳥取県西部地震に呼応したVHF帯自然界電磁波の観測」

情報分野 岡本愛子 岡山県立大学

「マルチメディアコンテンツのモデリング方式の考察」

情報分野 白石憲一 山口大学

「インタフェースボードの割込みを処理するためのシステムのモデル化とデッドロックの検出」

2000年IEEE広島支部決算報告

(単位：円)

収入

繰越金	597,095
HISS2000 (個人寄付)	712,076
HISS2000 (企業寄付)	699,250
HISS2000 (発表申込)	274,500
HISS2000 (企業紹介)	320,000
HISS2000 (論文誌売上)	14,000
Section Assessment	710,259
利息	354
Section Rebate	299,513

計 3,627,047

支出

HISS2000	1,379,938
Section Assessment	709,524
事務用品	13,430
銀行手数料	1,260
講演会謝礼と車代	260,000
郵送代	88,990
2000年総会費	39,080

計 2,492,222

通帳 1,110,069
現金 24,756
残高 1,134,825

2001年IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS2001)

収支決算報告

(単位：円)

1 収入・・・・・・・・・・合計 1,610,000

内訳

(財) 電気通信普及財団	1,000,000
(財) 中国電力技術研究財団	200,000
(社) 電子情報通信学会 中国支部	20,000
(社) 情報処理学会 中国支部	20,000
(社) 電気学会 中国支部	20,000
論文投稿申込料	182,000
論文掲載負担料	142,000
論文集売上	26,000
計	1,610,000

1 支出・・・・・・・・・・合計 1,700,982

内訳

会場設営費	660,240
郵送費	5,230
傷害保険	20,274
懇親会諸費用	80,764
印刷物作成費	550,315
講演者の諸費用	78,240
交通費	235,578
雑費	70,341
計	1,700,982

電灯料(電気通信)

以上

③花形の情報技術

「影」が露皇モラル問う

新素材やバイオテクノロジーなど、本来は人類の未来に資するために生みだされた二十世紀の科学技術。その影の部分が今、環境ホルモン、クローンなどといった問題となって表面化している。

「新技術には、必ず光と影の部分が。それは善悪の区別で使い分けられるものではない。例えば原子力は、平和利用ならば使う側に制御できるといふ間違っただけの誤りだ。原発事故や東海村の例を挙げて、広島市立大の大槻説平・情報科学部長は指摘する。

技術者自身も、開発した技術が社会や人に与える影響について、無関心でいることは許されなくなっている。それは、IT(情報技術)についても同じだ。

大槻学部長は「新技術を使っているうちに問題化しなかったが、インターネットが全世界に広がった九八年以降、だれもが使えない「成熟した情報社会」で、「もうかればよい」と、あえてモラルに反する行動をとる人も出てきた。

大槻学部長は「新技術を使っているうちに問題化しなかったが、インターネットが全世界に広がった九八年以降、だれもが使えない「成熟した情報社会」で、「もうかればよい」と、あえてモラルに反する行動をとる人も出てきた。

知の行方

大学が変わる

一月中旬に広島市内であったIEEE(電気電子学会)米国の広島支部学生シンポジウム。学生が主体となって運営した催しのメインは、学生によるテクニカル・

他分野との連携に活路

プレゼンテーションだった。七十のブースを舞台に、二日間情報、通信などの分野の百近い研究が発表された。期待に反して、企業関係者の来場は少なかった。



IEEE学生シンポのプレゼンテーションで、研究の成果を来場者に説明する学生たち

が、自分たちの研究内容を説明する学生たちの生き生きとした表情が印象的だった。

IT推進が政策でもうたわれる花形の分野であることは、シンポジウムを通して、学生たちの活気が物語っていた。半面、講演や情報倫理学の研究者も加わったパネルディスカッションでは、「ITが人間に対してどんな影響を与えるか、慎重に検討しなければならぬ」と、影の部分に言及する意見が目立った。

見が目立った。パネリストの一人だった比治山大の市川忠男教授は、工学の出身。「長年、学術社会で過(こ)してきて中(ちゆう)で、気づいていることを訴えなければ」と、今は危険信号を出す側に回る。

市川教授が心配するのは、モラル以上に人間の感性や文化が侵害される可能性。「ITが幼児期からの教育システムに入っていくと、知的な創造活動を妨げ、人間の抽象化する機能を弱める恐れがある。未来にはピカソもその鑑賞者もいなくなるのではないか」

学生たちがコンピューターを使って研究発表する時、見栄えばかりよいものが多くなっているのも気になるという。市川教授は「こんな事でもできるという安易な売り込み。本質的でないものに力が注がれ、内容に対する責任逃れになっている傾向もある」と手厳しい。

三十年以上前、アメリカの「コンピューター・サイエンス」を輸入して、日本では「情報工学」が生まれた。仕組みや道具としての役割を重視し、社会科学としてとらえたアメリカと、あくまで経済活動のタネになる技術と位置付けた、当時の日本との違いは明らかだ。

今、ようやくITと人や社会とのかわりをじっくりと考える土壌づくりが進んでいる。

第2部

学問盛衰記

2001.3.14

IEEE広島支部
2001年事業計画(案)

(1) 総会

2001年3月14日 (於 広島弥生会館)

- 支部長の承認ならびに新役員報告
- 前年事業および会計報告の審議と承認
- 本年事業計画および予算案の審議と承認
- 広島支部学生シンポジウム(HISS)貢献賞の表彰

(2) 事業

講演会 3回

- 3月14日 「機器・構造物の安全性に関わる2、3のトピックス」
幡中憲治氏 (山口大学工学部機械工学科教授)
- ほか2回

IEEE 広島支部学生シンポジウム 1回

支部ホームページ開設

(3) 理事会

第一回 事業計画 他

第二回 学生シンポジウムの準備 他

第三回 事業計画 他

2001年予算計画（案）

単位：円

収入の部

繰越金	1, 134, 825
Section Rebate	300, 000

収入計	1, 434, 825
-----	-------------

支出の部

HISS2001	90, 982
総会開催費	55, 000
講演会費	200, 000
事務用品	10, 000
郵送費	30, 000
ホームページ作成費	30, 000
雑費	20, 000
予備費	300, 000
次年度繰越費	698, 843

支出計	1, 434, 825
-----	-------------

（備考） 2001年内に学生シンポジウムが開催された場合、予備費はシンポジウム開催費の一部にあてる。